

河川管理施設の高度化・効率化対策【国土交通省】

施策概要

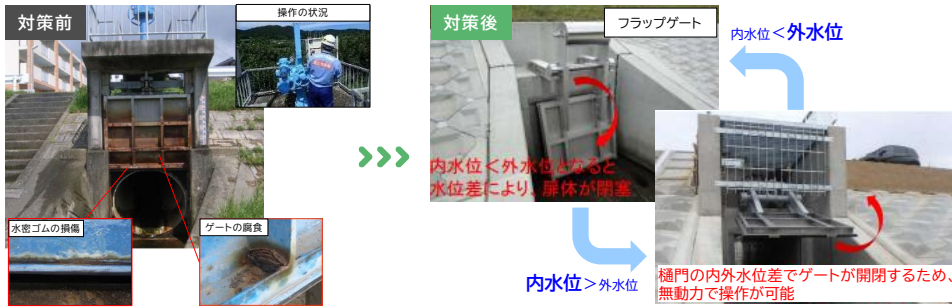
「予防保全型の維持管理」への転換に向け、要対策施設等の対応及びライフサイクルコストの縮減につながる取組を推進するため、河川管理施設の無動力化を実施

効果

ゲートの老朽化対策に併せた無動力化(フラップゲート化)により、ゲート操作が不要となり、急激な水位上昇時にも確実な操作が可能

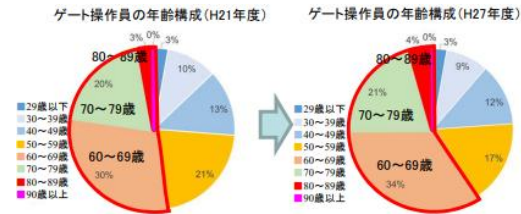
全国的な対策と効果

老朽化した小規模な樋門・樋管ゲートをフラップゲートに更新し、約500箇所を無動力化



- ▶ 樋門・樋管ゲートの無動力化により、ゲート操作が不要となり、急激な水位上昇時にも確実な操作が可能。
- ▶ 耐食性に優れる、ステンレス等を用いたゲートを整備することにより、メンテナンスにおける塗装頻度の縮減など、維持修繕費用の抑制が可能

【樋門・樋管の操作員の年齢構成】



▲ ゲート操作員の60歳以上の割合は、約5割から約6割に増え、高齢化が進行

【短時間強雨の発生回数】



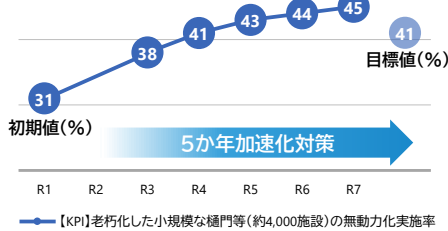
▲ 施設操作の頻度増加、緊急操作回数増加

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
37億円	42億円	9億円
R6	R7	累計
11億円	12億円	110億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

目標達成の見通し



整備事例

老朽化した樋門設備の更新・自動化により、洪水の逆流による被害を防止・軽減する



国土交通省 中国地方整備局
太田川河川事務所



広島県広島市



太田川河川工物応急対策事業

皆川樋門 (太田川水系太田川)



事業費

0.4億円 (うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.4億円)

事業の背景(地域の課題)

樋門操作員の高齢化、人口減少などによる担い手不足により、操作体制の確保が困難な状況となっています。太田川水系太田川に設置されている皆川樋門は、設備の老朽化が進行し、ゲートの塗装劣化や水密ゴム劣化、戸当りの腐食が確認されていました。当地区は背後に人家・学校等が多く存在しており、樋門施設の機能確保されなければ、浸水被害が拡大してしまう可能性があります。

事業の内容

樋門のゲートを引き上げ式からフラップゲートに更新を行うことで、設備の長寿命化と操作の省力化を図りました。



見込まれる効果

開閉操作を必要とする従来のゲートにおいて、更新時に無動力化(フラップゲート化)することにより、急激な水位上昇等の緊急時においても確実な開閉操作が可能となり、洪水の逆流による被害を防止します。